農業集落の変容が農村地域社会に及ぼす影響
── 1990-2000年農業集落調査の構造動態分析 ──

橋詰　登

1．はじめに

(1) 課題と構成

農業生産面ばかりでなく生活面にまで密接に結びついた共同体としての機能を持つ農業集落は，農村地域社会の核として定住人口の維持や地域資源の管理に重要な役割を果たしている。しかし，全国の農業集落数は農業センサス農業集落調査によると1990年の140,122から2000年には135,163へと5千近く（3.6％）減少した。これら減少した農業集落の過半が中山間地域に所在するものであることから，とりわけ生産・生活条件の不利な地域で存続が危ぶまれる事態に直面している農業集落が出現している様子がうかがえる。

また，存続している農業集落においても構成農家数の減少が続いており，1990年には約9千集落（6.3％）であった構成農家5戸以下の農業集落が，総農業集落数が減少しているにもかかわらず，2000年には約1万2千集落（9.0％）へと増加している。これら集落は農家世帯員の高齢化も顕著であると推察されることから，農業集落が持つ共同体的機能の弱体化によって，地域における農林業生産活動の停滞はもとより，定住基盤や農林地資源の荒廃を招く可能性が高いと危惧される。現状のまま推移していくならば，近い将来少なくない数の農業集落が消滅あるいは機能停止状態に陥り，農村地域社会に及ぼす影響は計り知れないといえよう。

このような状況を鑑みれば，小規模農業集落の維持・再編に向けた施策対応は急務であり，そのためにはまず農業集落の構成や機能面での変化を動態的に把握し，農業集落の変容が地域社会や地域資源の保全管理に及ぼしている影響を明らかにすることが求められる。本稿では，既存の農業集落統計では捉えることのできない，これら農業集落の変容プロセスを1990年および2000年農業センサス農業集落調査の組替集計・抽出集計に加え，両センサスの農業集落のマッチングによって新規作成した農業集落構造動態統計によって明らかにするとともに，農林業生産，地域資源管理とのかかわりについて地域属性を踏まえ定量的に分析する。

本稿の構成は以下のとおりである。

まず始めに，2．で農業集落の存滅および集落構成の変化を動態的に把握し，消滅集落の特徴や構成農家減少の実態を明らかにする。つづく3．では，継続集落について，集落

の機能や活動についての変化を地域属性を踏まえて検討する。ここでは特に，農業集落の変容が農業関連施設の維持・管理を通じ，地域資源の保全にいかなる影響を及ぼしているかに焦点をあてる。さらに4．では，新たに作成した構造動態統計表を用いた予測モデルにより農業集落の将来像を提示する。

なお，その前に，農業集落の定義と統計把握の現状を確認しておくこととする。

(2) 農業集落の定義と統計把握の現状

農業センサスの最も小さな集計・表章単位である農業集落は，農林水産省独自の地域範囲であって一般には馴染みがないものである。そこで分析に先立ち，農業センサスにおける農業集落の定義を確認しておこう。

農業集落の定義は，10年間隔で実施されている農林業センサス農業集落調査[1]で示されており，2000年の調査では「市町村の区域の一部において農業上形成されている地域社会。農業集落は，もともと自然発生的な地域社会であって，家と家とが地縁的，血縁的に結びつき，各種の集団や社会関係を形成してきた社会生活の基礎的な単位。具体的には，農道・用水施設の維持・管理，共用林野，農業用の各種建物や農機具等の利用，労働力（ゆい，手伝い）や農産物の共同出荷等の農業経営面ばかりでなく，冠婚葬祭その他生活面にまで密接に結びついた生産および生活の共同体であり，さらに自治および行政の単位として機能してきたものである。」となっている。この定義は，1960年，1970年調査において，それぞれ若干の修正が加えられてきているが[2]，1980年調査からは変更されていない。

また，農業集落調査は上記定義に基づく集落を調査客体とし，地方統計組織の職員が集落の諸事情に精通した者（区長，実行組合長，センサス調査員等）のうちから選んで面接調査によって行われている。ただし，すべての集落が調査されているわけではなく，農家数がゼロとなった集落[3]や農家が存在する集落であっても農家点在地[4]と称される「従前，農業集落としての機能を持っていた地域であっても，市街化や著しい過疎化のために農家がわずかになってしまい，農業集落としての機能があると認められない地域」は調査の対象から除外されている。なお，農業集落としての機能があるかないかの判定は，「農業生産や生活等を行うに当たって，農業集落としての合意形成（意志の統合あるいは調整）が行われているか否かによる」とされている。

2. 農業集落の存滅と世帯構成の変化

(1) 1990年と2000年調査のマッチング

農業集落統計は，10年間隔で実施されている農業センサス農業集落調査に基づき，その都度「農業集落類型別報告書」等が作成されてきている。しかし，これら既存の統計では，つぎの理由から農業集落の構成や機能面での変化を正確に把握することができない。